

快樂の祭壇

一刻淫サレシ肉体ハ
絶頂シ果テ狂イ咲ク

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



V-SLASH





今宵
お前達の働きは
報われるであらう

ハッ...



よくぞ
これまで奉仕を
果たしてきた！

敬虔なる
使徒たちよ

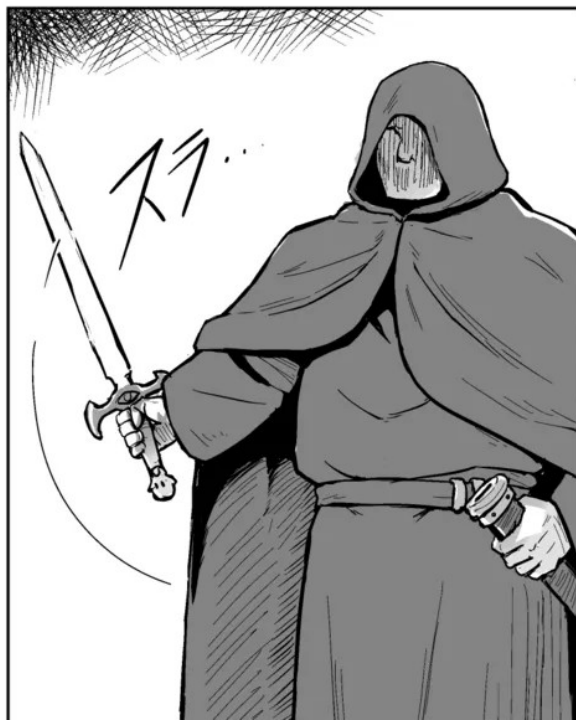


お前達が
生贄に捧げてきた
人間達を喰らい
ここまで大きく
成長したのだ！！

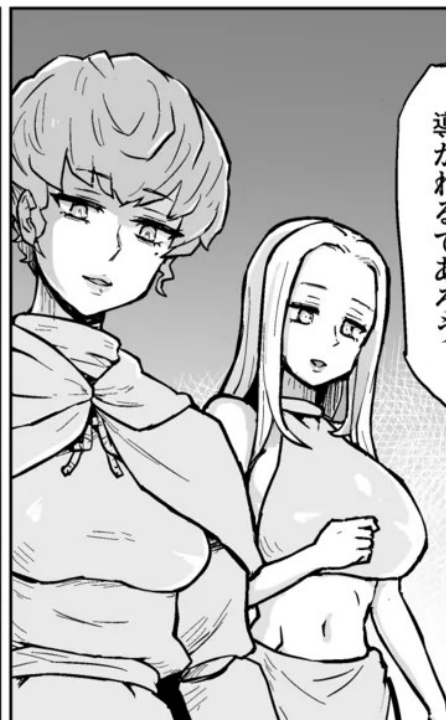
ドクッ



見よ！
この御神体の
胎動を！



スッ...

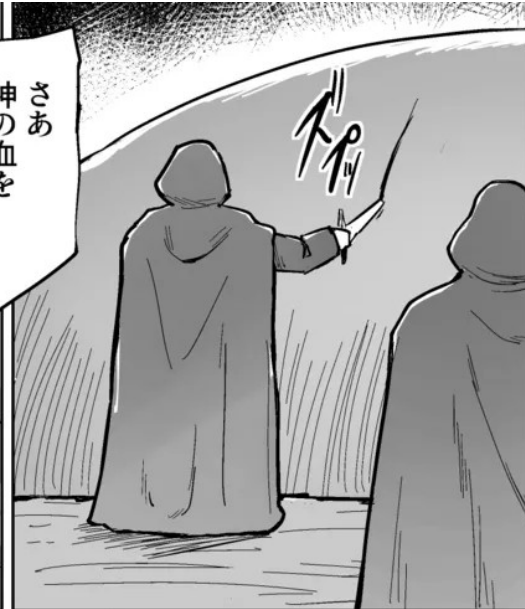


これを用いて
儀式を執り行えば
お前達は必ずや
快楽の楽園へと
導かれるであらう

ドクッ



さあ
神の血を
飲むがよい!



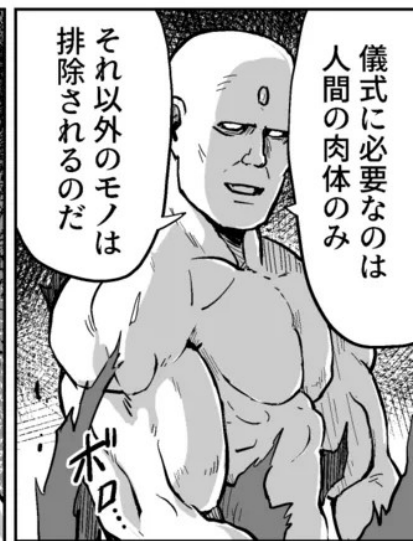
そして我らは
神の肉を喰らう!!



この「肉の祭壇」が
交わりの儀式的場と
なるのだ!

神の身が分かれ
深閨への扉が
開かれた





付加

はーん

あ





カトレアは
物心付く前に
ガーベラによって
孤児院から引き取られ
彼女の元で育てられた



彼女は
辺境の村はずれで
小さな修道院を
運営していたが――

実は密かに「淫欲の神」を
信仰する「邪教徒」であった



邪教の儀式では
しばしば性交が行われ
信徒と交わった男の
肉体は供物として
「神の肉塊」に捧げられる

そして多くの肉体と魂を
吸収した「肉塊」は
本物の「神の力」を顕現させ
その成長に奉仕した信徒たちを
「永遠の快楽の楽園」へ導くと
伝えられている



その思惑通り
成長したカトレアは
ガーベラを
心から尊敬し――

その豊かな肉体で
多くの男達と
「儀式」を行ってきた



ガーベラは より多くの人間を
捧げるための手駒として
見た目の美しい孤児を集め
忠実な「信徒」として「教育」し
利用しようとしていた





ガーベラ姉様
から言われて
おります

司祭様の
子を孕む
ようにと…

立派な
ペニス…

私はもう
準備が出来て
おります…♥



さあどうぞ
膣内に入れて
くださいませ

司祭様の為に
胎も空けて
おります…

何度でも
お気の済むまで
射精を…♥

あ…♥

ああッ♥♥



あ…ああ
おっぱいがツ♥

罪深く淫らに
穢れた体…

これまで
数多の男達に
中出しされ…

何度も妊娠
してきたので
あろう…

だがそんな
カラダこそ
我らが神への
最高の供物となる



あ…
ああ…

そんなに
搾ったら
お体をよごして
しまいます…

グフフ
構わぬ

そのまま
撒き散らせ！

その方が
神もお喜び
になる！

貴様の母乳も
身籠る胎児も！

全てが神への
捧げ物である事を
忘れるな！





ツあ...ああ...
あああああ...



ああ…♡

か…
感じる…♡

し…司祭様の
精液…♡

あああ♡

ん♡

まだまだ儀式は
これからだ

我が精子が
着床するまで
永遠に続けるぞ

は…
ひい…♡

ガーベラはかつて
とある地方領主の
妻であり
互いに愛し合っていた

だがある時
領主は病に掛かり
命を落としてしまう

子も成さぬうちに
最愛の夫を亡くし
深い悲しみと絶望が
彼女を襲った

屋敷に引き籠り
悲嘆の日々を送る
ガーベラであったが
彼女の傷心を癒す
薬は何もなかった



そんなある時
黒いローブ姿の男が現れ
彼女の悲しみを救う
方法があると告げる



その日から夜な夜な
若く美しい男達が屋敷に
招かれるようになった

奇妙な事に彼らが
屋敷から出てくるのを
見た人間はいなかったが

人々は気にも留めず
ただガーベラを哀れみ
またある者は軽蔑した



そして時が経つと
彼女自身も
屋敷から姿を消し
行方知れずとなった

人々は哀れな未亡人が
乱行に狂った挙句
人知れず自ら命を絶った
のであろうと噂した

だがその頃 彼女は
辺境の小さな修道院を
買い取り地下に秘密の
祭壇をこしらえ

本格的な
邪教の信仰にまい進
していたのであった







は...♡

あ...♡

あッ♡

ああッ♡



賞賛に値する働きだ...

然るべき褒美を授けてやらねばな...

あ...

有難き幸せ...



ああッ♡







ああ……♡

力強い奔流が
私の膣内に……

幸せです♡幸せです♡
幸せです♡幸せです♡

射精して射精して
もっと射精して……♡



ああ…
満たされる♡

司祭様の精子が
こんなにたくさん
流れ込んで…

んちゅっ♡

むちゅっ♡

ちゅっ♡

すゅっ♡

受精したい♡
受精したい♡

司祭様の仔を
胎に宿したい♡



このままずっと
繋がっていたい♡

快樂の園へゆけば
ずっと司祭様と…

神よ…
どうか私を
導きたまえ

あはあ♡

あ…

敬虔なる信者
ガーベラよ

貴様は
間違いなく快樂の樂園に
召されるであろう

愛欲に飢えた
その体…

我らが神の元で
存分に
役立ててもらおうぞ

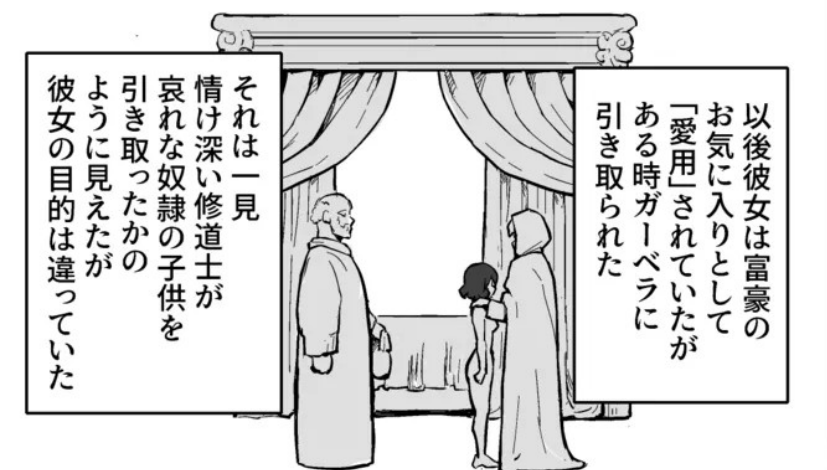
リリイは幼い頃に
人買いに攫われ
闇市で売られた
奴隷であった



彼女はとある
富豪に買われ
「道具」として
使いやすいように
胎に封印を施される



それは 子宮の機能を
魔術で恒久的に抑制し
妊娠しない体へと
改造する禁術であった



以後彼女は富豪の
お気に入りとして
「愛用」されていたが
ある時ガーベラに
引き取られた

それは一見
情け深い修道士が
哀れな奴隷の子供を
引き取ったかの
ように見えたが
彼女の目的は違っていた

堕胎の必要が無く
容姿に優れたリリイの体は
儀式の手駒として
理想的だったのである



そして彼女は奴隷の頃と
さほど変わらぬ「日々の務め」を
果たしながら
「信徒」としての日々を送る



彼女に一つだけ
救いがあるとすれば
「永遠の快楽の楽園」への道が
約束されていた事であった――



ね…
司祭様…
私の腰使い…
気持ちいい？

ガーベラ姉さまは
いっぱい褒めて
くれるよ…

もっと
気持ちよく
出来るから…

いつでも
おまんこの中に
びゅーっとして…





女としての機能が
欠けているようでは
楽園で「役目」を果たす事が
出来ぬ

…しかし
これまで貴様が
生贄に捧げた男共の
数は賞賛に値する

ん…

とやう…

よって
貴様を女として
あるべき体
に戻してやろう

え…

子宮に施された
「避妊の封印」

—人間ごときの
小賢しい魔術など
我らが神の御力で
容易く解除可能だ

あ…



あ…
お…
お腹が…
熱くなって…

こんな…
は…初めて…

お前の子宮が
正常に機能
し始めたのだ

妊娠し
仔を孕む
ためにな

に…
妊娠…

わ…
私が…

妊娠…

お姉さま達
のように…

お腹が
膨らんで

赤ちゃんを…?

グフフ…

カラダの反応が
まるで違って
きたな…

肉褌がペニスに
絡みついてくるぞ

そうだ！
それでいい！！

せ…
精液ッ♥
膣内に…ッ♥

雌として
ふさわしい
貌だ！

何度でも
奥までたつぷり
注いでやる！

さあ股を開き
受け入れるのだ！！

お…

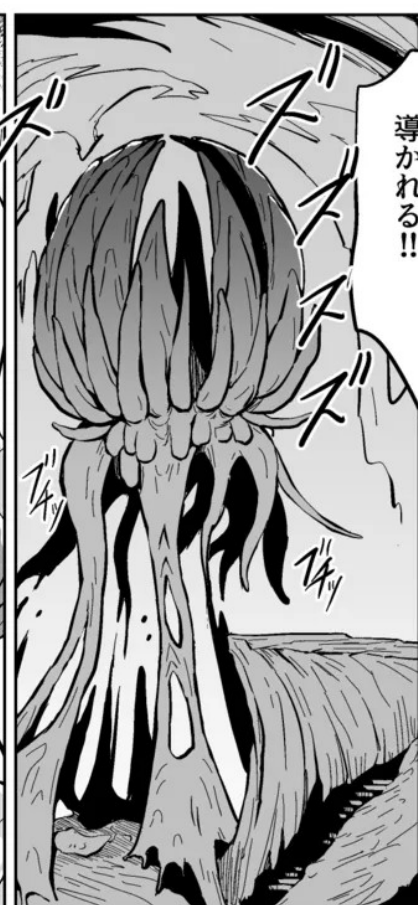
奥ッ…♥

あッ♥

はいッ♥
お…お腹ッ♥



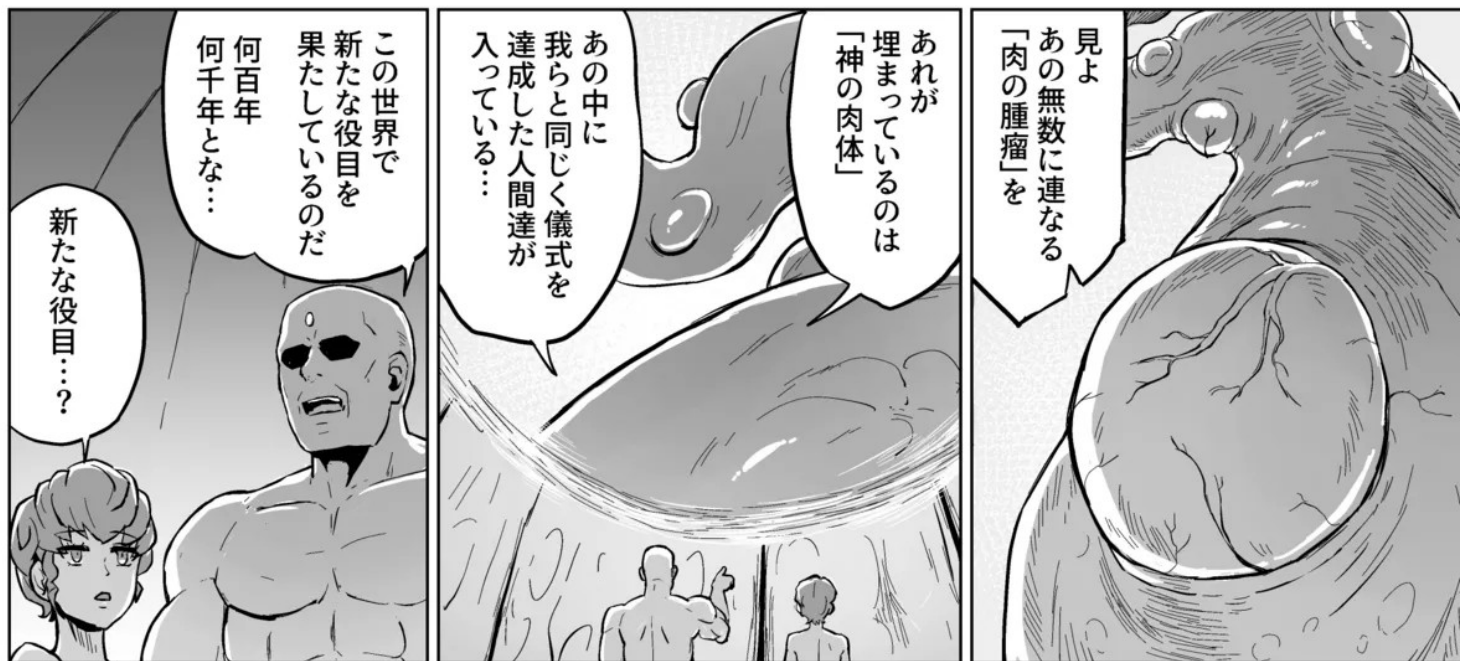






この無限に広がる
空間こそ神の世界

否—空間そのものが
「神」なのだ!!



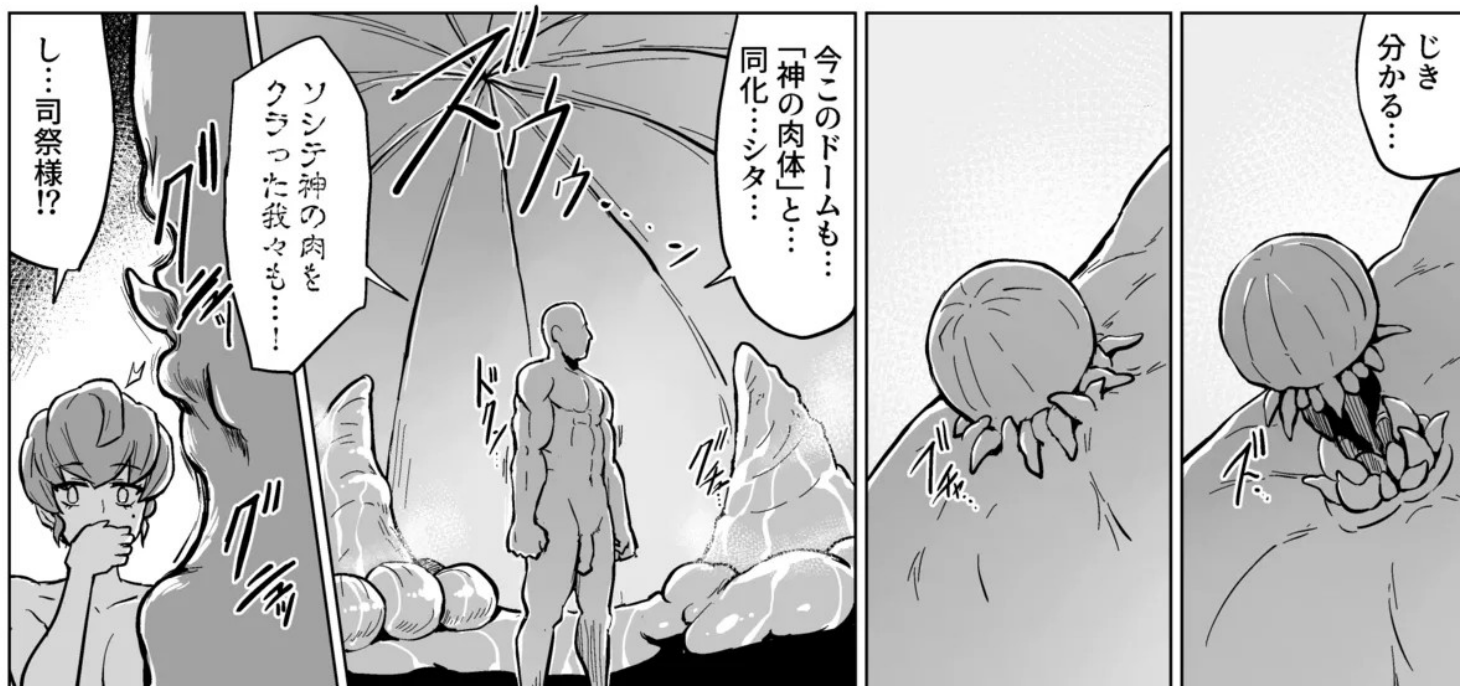
見よ
あの無数に連なる
「肉の腫瘍」を

あれが
埋まっているのは
「神の肉体」

あの中に
我らと同じく儀式を
達成した人間達が
入っている…

この世界で
新たな役目を
果たしているのだ
何百年
何千年とな…

新たな役目…?



じき
分かる…

今このドームも…
「神の肉体」と…
同化…シタ…

ソシテ神の肉を
クラった我々も…!!

し…司祭様!?

案…ずるな…
これは「我」が
人間と交わる
ための形態

非実体である「我」が
直接人間と交わる為の
「媒体」となる事

それが司祭達の
真の役目なのだ

そしてお前達の
役目はこの世界で
「我」と交わる事

人間の持つ淫らな
欲望のエネルギーを
「我」に捧げる為にな

さあ永遠に
交わろうぞ

私の血を飲んだ
お前達はこの世界で
不老不死となる

人間の身では
決して味わえぬ
究極の快楽を
与えてやる





か…快感で
あ…頭が…

こんな…

そ…
想像以上の…

こ…これが
か…かみの…

い...イイ...
気持ちいい♡

おまんこもツ
おっぱいもツ♡

突いて突いて♡
突いてエツ♡

おっぱいも舐めてエ♡
いっぱい吸ってエ♡

射精して射精して♡
今すぐソコに射精して♡

もっとイかせてツ♡
激しく激しく♡
滅茶苦茶にツ♡

来た♡
来た来た来た♡

イクッ♡
イクイクイク♡
イクイクイク♡





















ソレが
もたらしたのは
尋常ならざる
快感であった――



女達はやがて
自分たちが
「人」である事も忘れ

ただ呻き声を
上げながら絶頂し
母乳を垂れ流す
肉袋と化していた



遙か長い
時が経ち

彼女達の魂は
激しい快感で
焼き尽くされた

膨らんだ胎には
容赦なく射精が
繰り返され

勃起した
乳首からは
絶えず母乳が
溢れ出ていた

その穢れた胎から
産まれ出てくる
モノ—それは—





無限に増殖する
快楽の塊

そして
永遠に繰り返される
快楽の連鎖



- ◆発行日 2025年3月12日
- ◆著者 夕霧
- ◆発行 V-SLASH
- ◆印刷所 栄光印刷 様

Xアカウント https://x.com/u_slash
pixiv <https://www.pixiv.net/#id=115684>